令和２年　地域連携講座

発達障害について　作業療法士の立場から

埼玉県立大学　保健医療福祉学部
作業療法学科　川俣　実

目次

1. 作業療法士が関わる　主な障害

2. 障害の基本的なとらえ方と対応

3. 作業療法の例①　　～身体の使い方～

4. 作業療法の例②　　～コミュニケーション～

1. 作業療法士が関わる　主な障害

＊ 脳性麻痺　72.1%
＊自閉症スペクトラム・学習障害　67.5%
＊ 知的発達障害　57.1%
＊ その他（神経筋疾患、四肢奇形、重症心身障害など）

%は、作業療法士が関わった経験のある疾患等
2015年作業療法白書より

2.障害の基本的なとらえ方と対応

- **基本的な障害のとらえ方**

⇒適切な経験が積み重ならない。

偏った、過剰な、病的な、不適切な経験を積む

- **基本的な対応**

⇒経験のプロセスをその子にとって可能な限り適切にするように働きかける

例：脳性麻痺　両麻痺（上肢より下肢の麻痺が強い）
～立ち上がり～

●下肢の交互性の発達が不十分

●下肢の体重負荷の発達が不十分

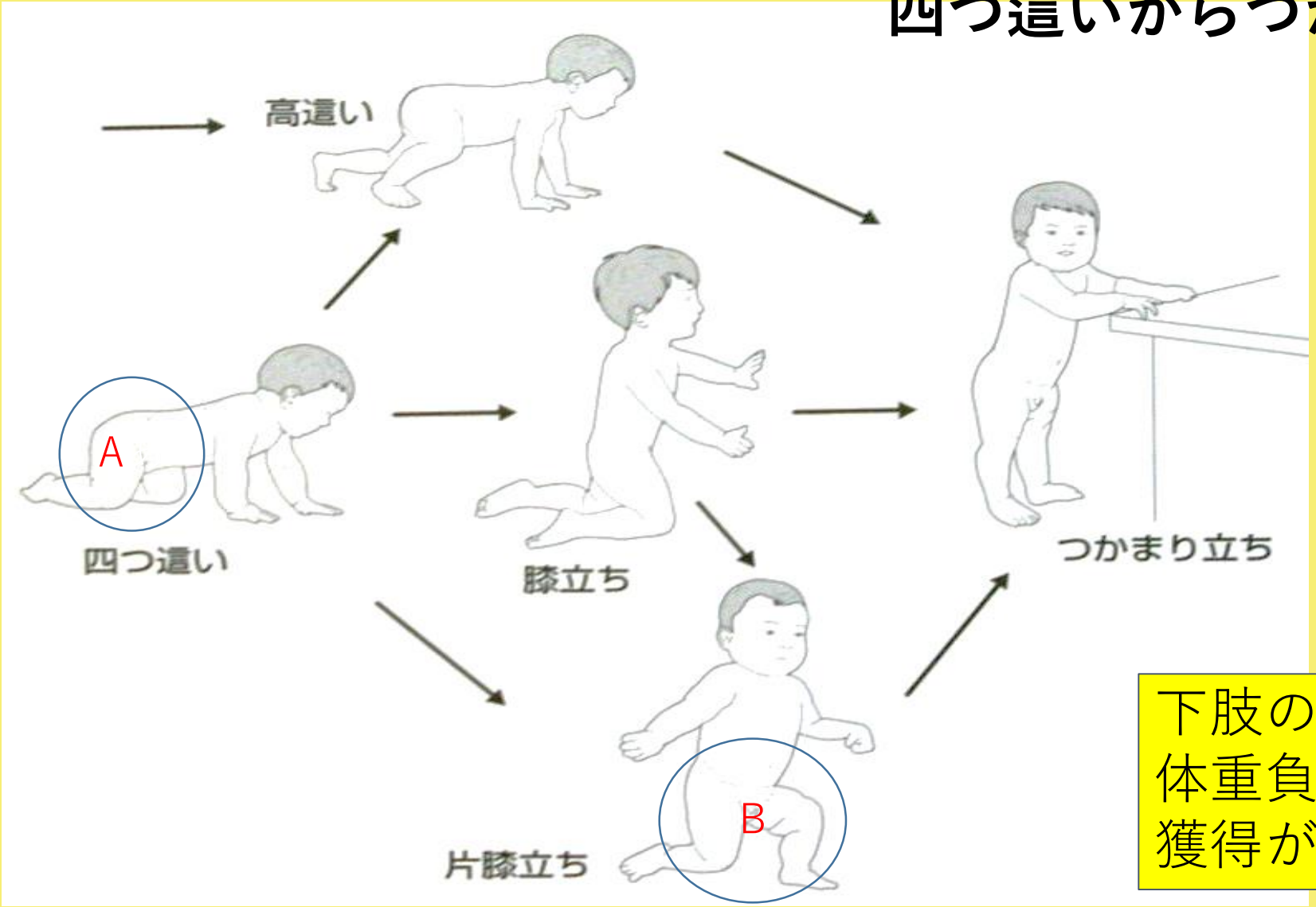
↓

腕の力に依存して、立ち上がろうとする

偏った、過剰な、病的な、不適切な経験

子どもの移動運動　の定型発達

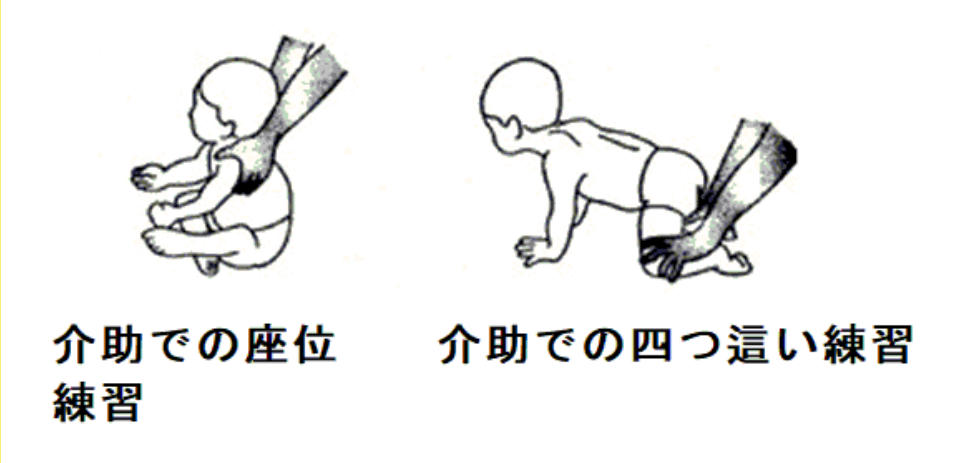
四つ這いからつかまり立ちまで

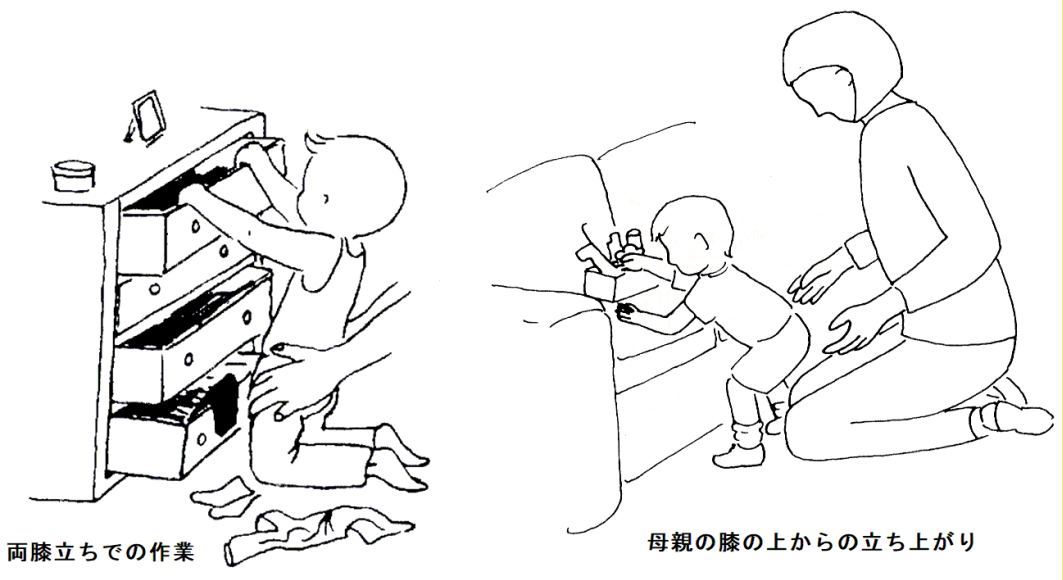


下肢の交互性（A）と
体重負荷（B）の能力の
獲得が大切

作業療法の基本的な対応

経験のプロセスがその子にとって可能な限り適切であるように促すこと





図：体重負荷や下肢の交互性の経験を可能な範囲で無理なく積む

子どもとの関わり方：保育士と作業療法士の視点の違いより

保育士6名のインタビューより（森本　2015）

保育士の視点

作業療法士の視点

社会性重視の遊具使用	↔	自由発想的な遊具使用
安全性重視の遊具使用		
見えている運動をみる	↔	運動発現の仕組みをみる
言語的コミュニケーションの優位	↔	かけひき型コミュニケーション
モデル先行	↔	反応確認型モデリング

作業療法の例　①　～身体の使い方～

なおや君（水色のシャツの子：5歳）

「子どもの発達と感覚統合」より

粘土をこねる　身体の構えが未熟

ブロック遊び　まねても組み立てることが難しい

なおや君　の様子から

粘土こねる：

腰が引けてみえる.

こねるための身体の構えができていないのか

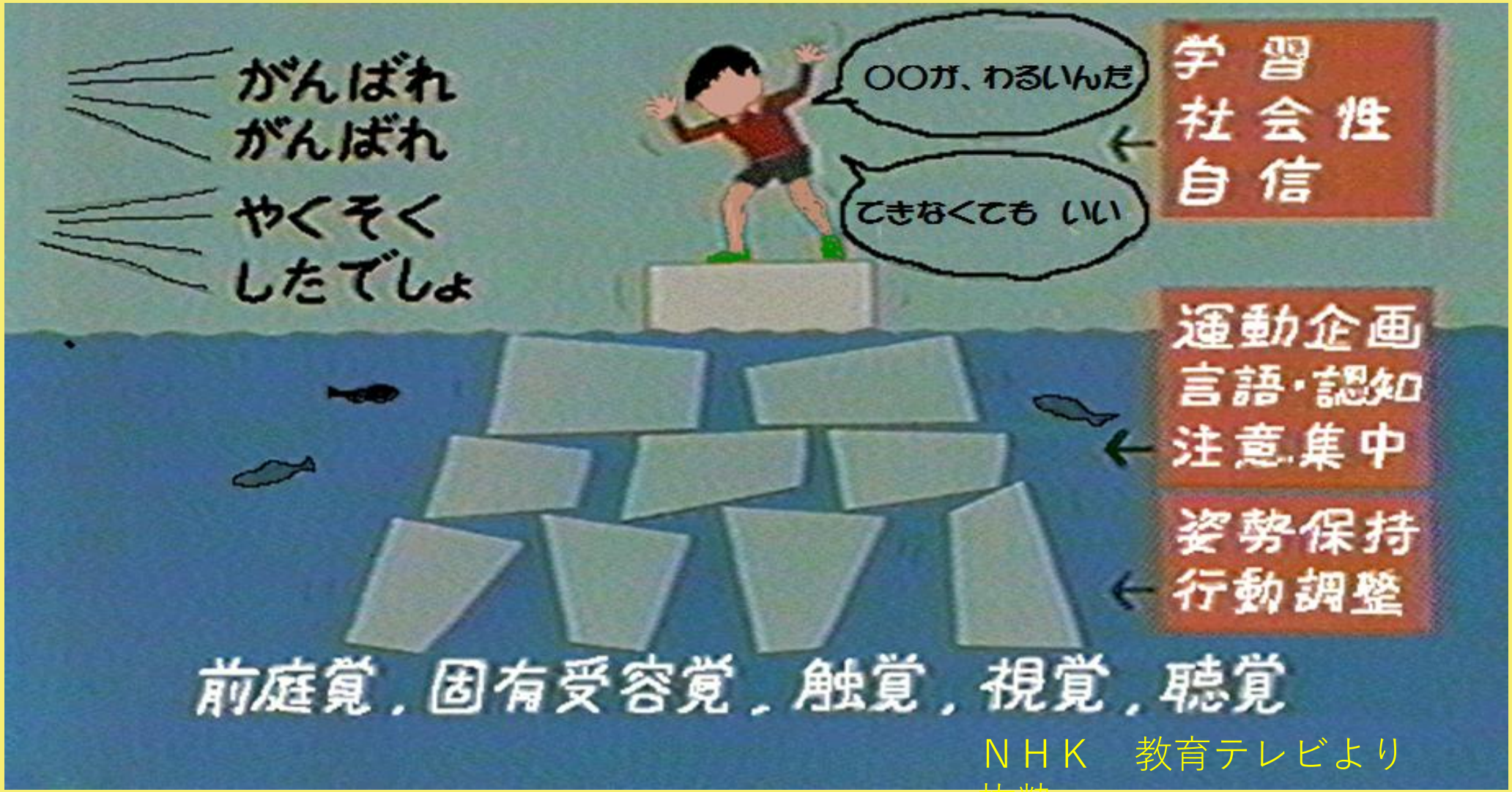
手先でこねていて、からだ全体の力が加わっていないようだ

ブロック遊び：

目を凝らして手本を見る

（ブロックの構成に必要なパーツの位置関係が分かりにくのか）

感覚統合理論の視点から理解する



ＮＨＫ　教育テレビより抜粋

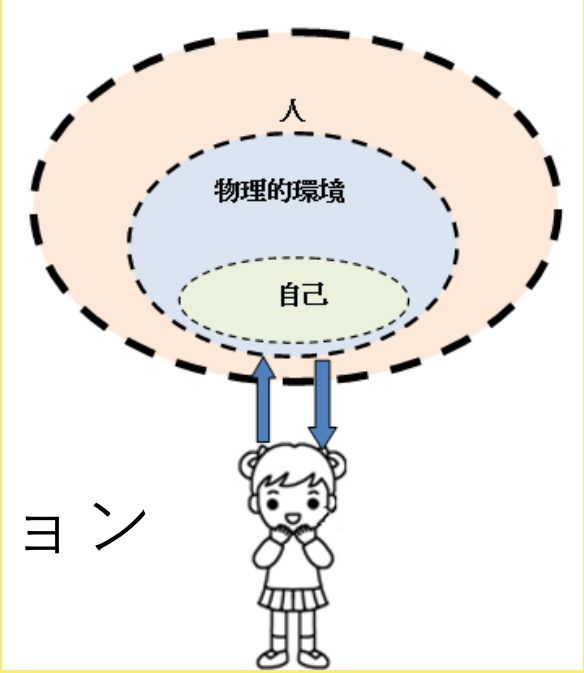
感覚統合理論から支援を考える

支援の方針：ブロック遊びの基礎となる能力の発達を促そう

•芝（坂）滑り遊び
⇒体幹の安定性及び身体軸の発達
（前庭覚と固有受容覚の統合）

•スイングを使った　輪入れ　遊び
自分の身体軸と物との関係性
⇒空間知覚（前後左右など位置関係の理解）の発達
（前庭覚・固有受容覚と視覚の統合）

作業療法の　例②　　～コミュニケーション～



　　コミュニケーションの対象は一般には「人」だが、「**自己**」や「**物理的環境**」を対象にしたコミュニケーションは「人」とのコミュニケーションの基礎になる

自己を対象にしたコミュニケーション

　　赤ちゃんは、手、足、体幹など身体各部位を思った通り扱うことはできない、つまりコミュニケーションの対象にあたる。そして、物に手を伸ばすこと、歩くことなどを獲得する過程で、自身の体を対象にしたコミュニケーションを続けているのです。

●物理的環境を対象にしたコミュニケーション

「物理的環境」の特徴は、「人」と比べその反応は予測しやすく、その環境から能動的に働きかけることは少ない

例：すべり台遊び：登る、すべり、着地する
食事：食物の大きさに応じて手を構え、口の開口を調節する
道具を使った活動：スプーン・ハサミ・自転車などの道具
※場合によっては「物理的環境」は、コミュニケーションの対象ではなく，自身の身体の一部のようになっていく

「物理的環境」の動きを段階付けることで、コミュニケーションの発達を促せる。たとえば、静止している、動きが単調（予測しやすい）、動きが複雑・不規則（予測しにくい）と、段階づけることができる。ボール蹴りを例にすると、静止しているボールより、まっすぐ自分の方に転がってくるボールの方が蹴るのが難しく、さらにラグビーボールであれば、転がる方向が予測できずさらに難しい

●人を対象にしたコミュニケーション

スマートスピーカー

　他人は、自分の思った通りに動いてくれず、「物理的環境」より複雑で不規則であるため、コミュニケーションは難しいと思います。“自分は好きな遊びなのに、あの子は嫌う”、“昨日は一緒に遊んだのに今日はやらない”、などの反応があると戸惑いやすい。

　子どもにとって「人」とのコミュニケーションを段階づけると、概ね　寛大な人（大人）、従順な人（お姉さん・お兄さん、年下）、対等の関係にある人（同年齢児）の順に難しくなる。

　このような段階づけ方をイメージして関われば、コミュニケーションスキルを無理なく促せるかもしれない。

コミュニケーションの能力には、相手の気持ちや考えを察して、やり取りをすることが必要

相手の考えを推察する力
（心の理論）を育てる

抜粋：小池敏英 監修：アニメーション版　心の理論　Ver2．DIK教育出版

事例「相手の気持ちがわかりにくい」　年長児のえいと君

　昆虫が大好き。友だちと昆虫の話題で盛り上がっているところで、先生の話を聞く時間になりました。友達は先生の話を聞こうと前を向きますが、えいと君はまだ昆虫の話を続けています。

　友だ ちが静かにするように目で訴えていますが、えいと君はその意味がよくわからないようです。 そばにいた先生に、頭を軽く叩かれ「話を聞く時。しずかに。」と伝えられると、話していたの を止め、先生の言うことを理解することができました。

　家に帰るとお母さんが「プールはどうだった？　水に潜ったの？」などとたずねました。

　えいと君は、かなぶんを捕まえたこと、かなぶんのえさが欲しいことな ど、かなぶんのことばかりを話します。お母さんが困った顔をしていてもお構いなしです。

（症状①）

◆先生の話を聞く時間なのに、昆虫の話を続ける

（推測される原因）

●人の立場や場の雰囲気などを捉えることが難しくて、そぐわない話をする可能性がある

（症状②）

◆目による訴えを気にしない

◆お母さんが困った顔をしていてもお構いなし

（推測される原因）

●表情の変化や動作、しぐさ、話し方の抑揚など言葉以外のサインを読み取ることが難しい。または、表情や動作がコミュニケーション手段の一部であることを知らない

（症状③）

◆一方的に　かなぶん　のことばかりを話す

（推測される原因）

●自分と他人は別の考えや知識をもっていることがわかりにくい

●自分の知っていることや、興味があることは、誰もが知っていると思っている

（症状①、②、③に対して、共通にあると推測される原因）

●感覚の感じ取り方に偏りがある

感覚の感じ取り方（触られることが好き、嫌いなど）が他者と異なる場合は、相手の感じ方についても自己の感じ方が基準となるため、誤った解釈をしてしまう可能性がある

［対策］

- 身体を通した他者とのやり取りを重ね、他者と共感できる機会、違いを感じられる機会を作る

  ①手をつないでの活動、２人３脚、手押し車、おんぶ、一緒に荷物運び

  ②体験を通して得た感じ方の違いを、言語化して共有する機会を作る

- それぞれの人や場がどういった状況かを伝える。それを踏まえて、いろいろな話し方や話題、関わり方が必要なことを知らせる

- 非言語的なサイン（口元、目元の動き、声の抑揚など）が相手の行動や感情を変化させる手段であることを教える

  また、本人が示す感情および非言語的なサインを言語化して共感し、 表現の多様性を伝える

これで、私の話は終わりです。
ご清聴ありがとうございました。

参考図書　と　DVD

土田玲子監修：感覚統合　Q&A　改訂第2版、協同医書出版、2013．3000円

佐藤和美：感覚統合を生かして楽しく学習．かもがわ出版、2014年．2000円

子どもの発達と感覚統合「第1巻　ぼくらを分かってほしい」「第2巻　ぼくらはぐぁんばる」、新宿スタジオ、各巻20,000円

ご案内

埼玉県立大学　公開講座

「出張！作業療法士による～いきいき子育て相談・勉強会～」